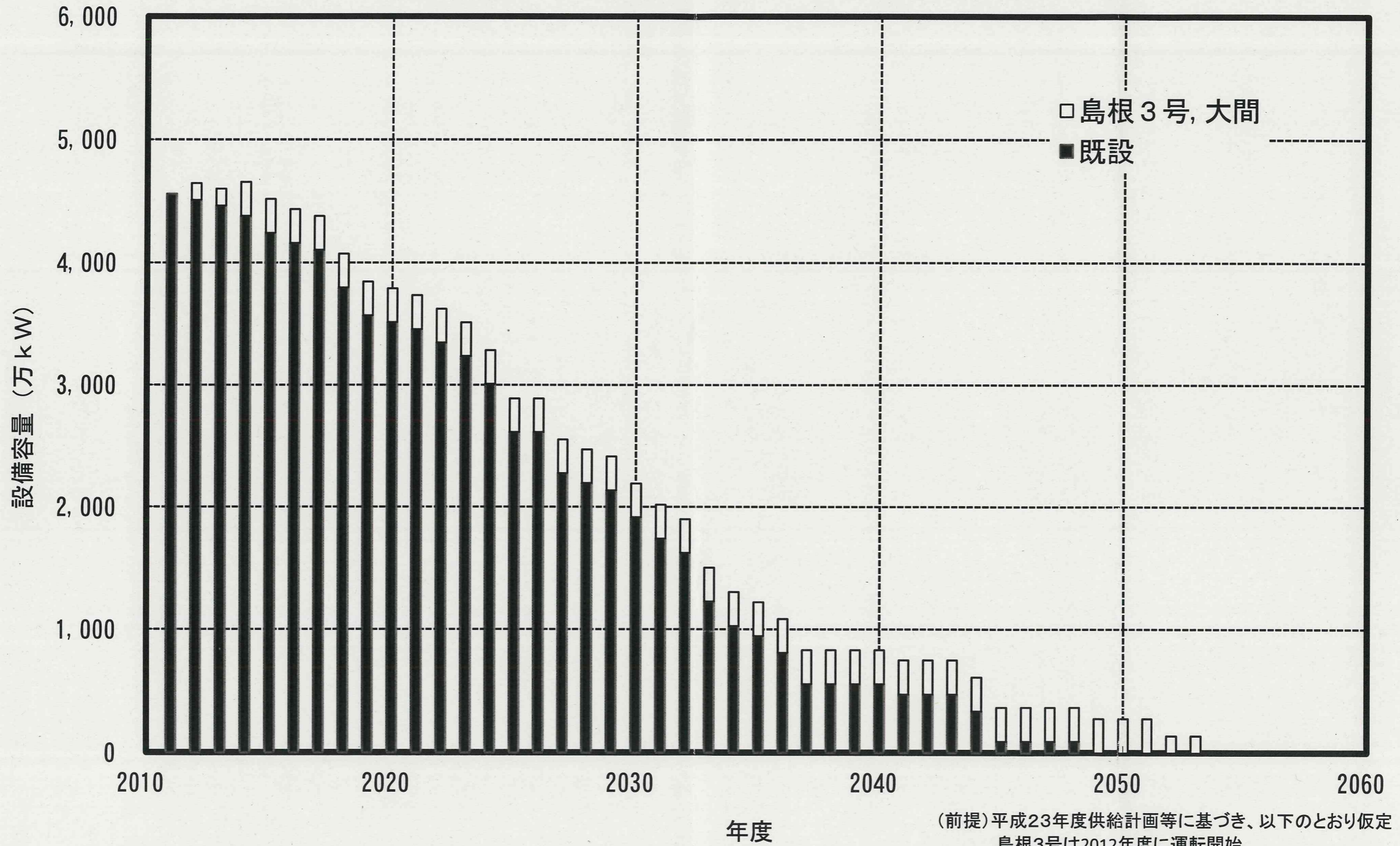


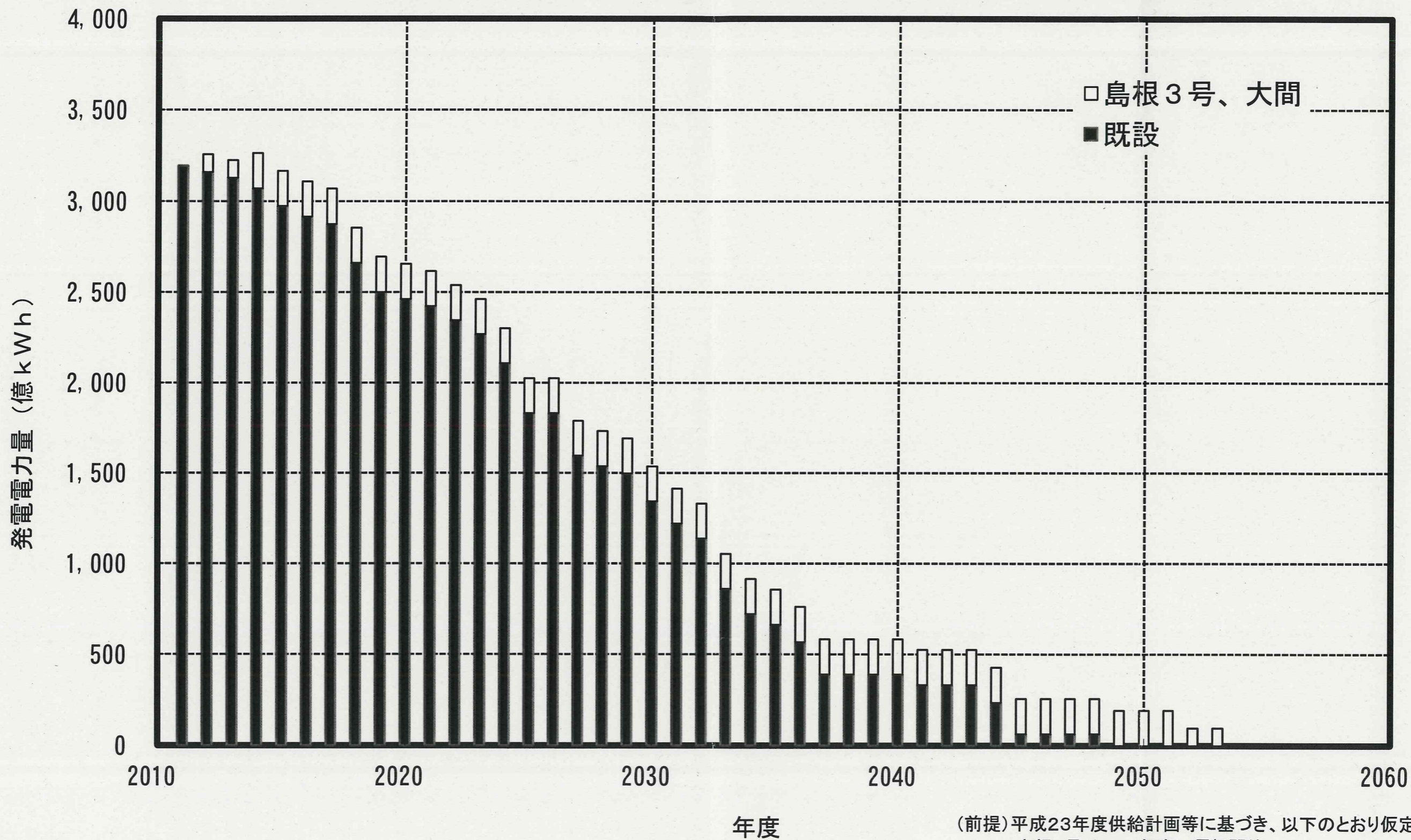
40年運転制限ルールを適用した場合の、原子力発電所の設備容量の推移



(前提)平成23年度供給計画等に基づき、以下のとおり仮定  
 島根3号は2012年度に運転開始  
 大間は2014年度に運転開始  
 福島第一1~4号は2011年度に廃炉



40年運転制限ルールを適用し、定期検査を加味した場合(稼働率80%)の発電電力量の推移



(前提)平成23年度供給計画等に基づき、以下のとおり仮定  
 島根3号は2012年度に運転開始  
 大間は2014年度に運転開始  
 福島第一1~4号は2011年度に廃炉



# 各原子力発電所(軽水炉)の使用済燃料の貯蔵状況について

(平成23年9月末時点)【単位:トンU】

発電所名		1炉心	1取替分(A)	使用済燃料貯蔵量(B)	管理容量(C)	管理余裕(C)-(B)	管理容量を超過するまでの期間(年) ((C)-(B)) / ((A)*12/16)
北海道	泊	170	50	380	1,000	620	16.5
東北	女川	260	60	420	790	370	8.2
	東通	130	30	100	440	340	15.1
東京	福島第一	580	140	1,960	2,100	140	1.3
	福島第二	520	120	1,120	1,360	240	2.7
	柏崎刈羽	960	230	2,300	2,910	610	3.5
中部	浜岡	410	100	1,140	1,740	600	8.0
北陸	志賀	210	50	150	690	540	14.4
関西	美浜	160	50	390	680	290	7.7
	高浜	290	100	1,180	1,730	550	7.3
	大飯	360	110	1,400	2,020	620	7.5
中国	島根	170	40	390	600	210	7.0
四国	伊方	170	50	590	940	350	9.3
九州	玄海	270	90	830	1,070	240	3.6
	川内	140	50	870	1,290	420	11.2
原電	敦賀	140	40	580	860	280	9.3
	東海第二	130	30	370	440	70	3.1
合計		5,070	1,340	14,200	20,630	6,710	

注) 管理容量は、原則として「貯蔵容量から1炉心+1取替分を差し引いた容量」。なお、中部電力の浜岡1・2号機の管理容量は、運転終了により、貯蔵容量と同量。

参考: 六ヶ所再処理工場の使用済燃料貯蔵量: 2,834トンU(最大貯蔵能力:3,000トンU)

むつりサイクル燃料貯蔵センターの使用済燃料貯蔵量: 0トンU(最大貯蔵能力:3,000トンU<sup>(※)</sup>)

※平成24年7月操業予定。将来的に5,000トンUまで拡張予定。